

病虫害発生予察指導情報

(果樹全般・果樹カメムシ類 No.9)

令和8年7月11日
鳥取県病虫害防除所

表1－1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町**		湯梨浜町***		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	1	1.1	19	9.5	5	2.9
5月計	359	134.0	422	301.3	658	262.6
6・上	240	38.0	66	16.4	70	46.1
・中	70	226.7	222	416.4	76	78.8
・下	213	285.8	312	936.8	98	209.5
7・上	181	926.8	269	1555.9	149	337.0
・中		507.3		497.0		217.7
・下		1165.5		891.7		353.5

* 平年：八頭町 R3～R7、湯梨浜町 R5～R7、北栄町 H28～R7

** 八頭町はR3年度から調査地点を変更。

*** 湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

表1－2 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町**		湯梨浜町***		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	0	0.0	5	0.5	0	0.0
5月計	2	3.0	51	4.7	10	3.3
6・上	2	1.7	12	0.0	1	0.5
・中	3	20.7	23	42.0	5	10.7
・下	11	87.2	39	95.4	2	23.0
7・上	24	404.9	53	484.9	22	94.8
・中		401.5		253.9		112.7
・下		733.0		1132.4		220.9

* 平年：八頭町 R3～R7、湯梨浜町 R5～R7、北栄町 H28～R7

** 八頭町はR3年度から調査地点を変更。

*** 湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

表1－3 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町**		湯梨浜町***		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	0	0.3	1	0.0	0	0.7
5月計	8	14.5	93	39.7	91	81.1
6・上	104	11.6	35	2.3	89	58.9
・中	43	197.1	131	672.5	107	506.0
・下	88	382.0	147	1487.5	80	598.6
7・上	43	328.8	184	2282.0	132	373.3
・中		475.2		1019.9		288.6
・下		486.6		607.3		275.5

* 平年：八頭町 R3～R7、湯梨浜町 R5～R7、北栄町 H28～R7

** 八頭町はR3年度から調査地点を変更。

*** 湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

表2 集合フェロモントラップ*におけるチャバネアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	河原町***		北栄町		米子市****		南部町****	
	本年	平年**	本年	平年**	本年	前年*****	前年	前年*****
4月計	4	5.3	16	15.5	0	1.0	4	3.0
5月計	473	231.0	101	113.3	110	4.0	103	0.0
6・上	240	253.0	19	30.1	14	1.0	9	0.0
・中	253	1,259.6	24	17.1	51	6.3	18	1.0
・下	487	606.6	19	40.9	18	2.7	22	0.0
7・上	515	3,393.2	41	89.1	186	2.0	82	0.0
・中		2,129.4		77.3		0.0		0.0
・下		4,457.1		118.0		0.0		0.0

* 河原町（水盤式）は果樹園横、北栄町（水盤式）は果樹園横、米子市（乾式）は別所に設置。南部町（乾式）は金田に設置（西部普及所調査）。

** 平年：河原町 R5～R7、北栄町 H28～R7

*** R5年度から郡家町花原の調査地点を河原町小倉に変更。

**** R7年度から米子市別所地区内で調査地点を変更。

R7年度から南部町会見地区の調査地点を南部町金田地区に変更。

*****調査地点変更後3年未満のため、前年値を記載。

<1 情報の内容 7月上旬現在 >

- (1) チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数は、八頭町、湯梨浜町、北栄町で平年並。また、集合フェロモントラップにおける誘殺数は、河原町、北栄町で平年並、米子市、南部町で前年に比べて多い。
- (2) クサギカメムシの予察灯における誘殺数は八頭町、湯梨浜町、北栄町で平年並。
- (3) ツヤアオカメムシの予察灯における誘殺数は、八頭町、湯梨浜町で平年並、北栄町で平年に比べてやや多い。

<参考>

・発生量の記載

発生量の多少は中央値（median）の考え方を基に決定しており、発生の実態に即している。

そのため、本年値と平年値の関係が発生量の記載と一致しない場合がある。